

経営比較分析表（令和6年度決算）

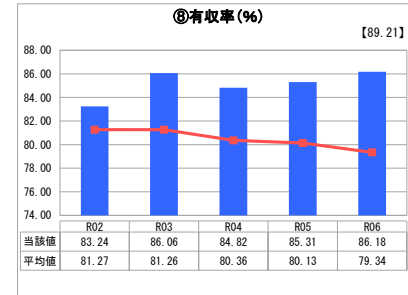
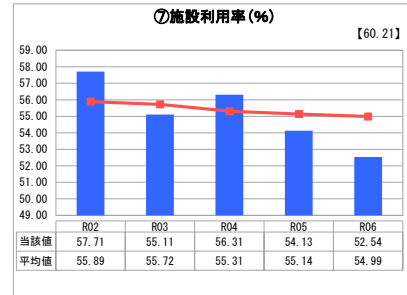
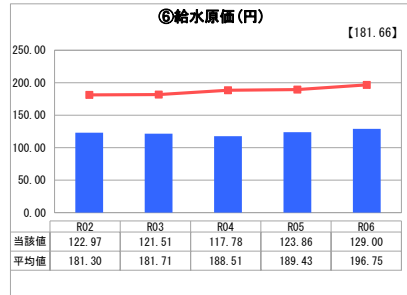
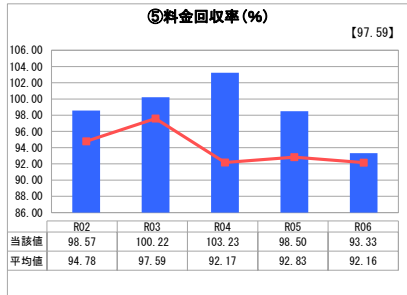
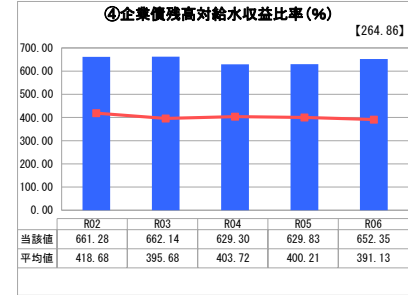
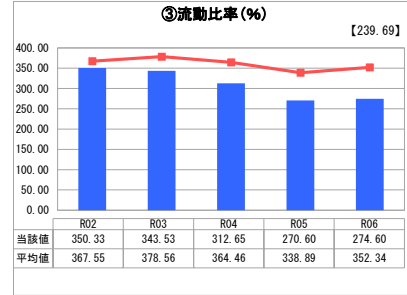
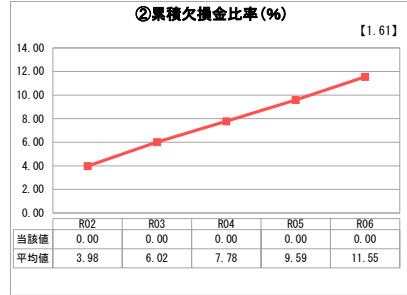
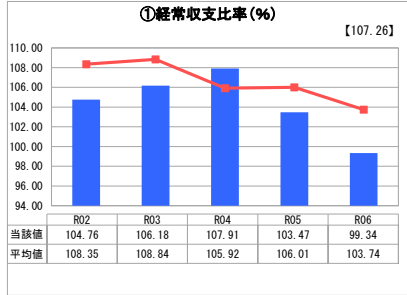
高知県 いの町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	63.27	93.55	2,414	

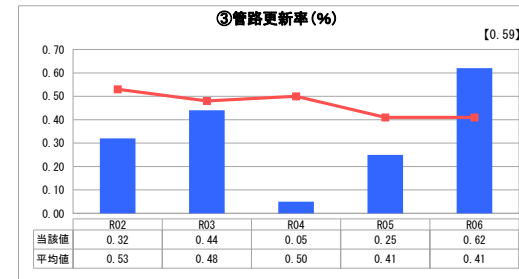
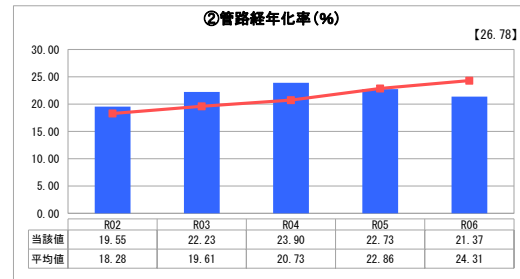
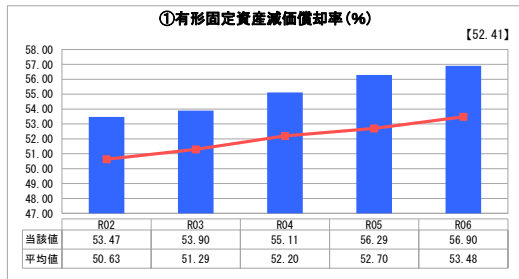
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,829	470.97	44.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,350	25.17	768.77

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

《健全性》
 経常収支比率について、令和元年度に水道料金の増額設定を行い、累積欠損金は発生していないが、令和6年度の収益は赤字となった。短期的な債務の支払いに要する現金等の資金は充足しているが、流動比率は低下傾向である。また、企業債残高対給水収益比率を見ると、簡易水道事業（法非適用）を経営統合したことにより企業債残高が多額にのぼり、全国平均や類似団体平均に比して脆弱な財務体質となっている。

《効率性》
 料金回収率については、給水原価がさらに増加したことにより前年より下がり、給水収益では費用を賄っていない結果となったが、有収率は前年より増加した。定期的な漏水調査や老朽管路の布設替え等を行い、漏水防止により無効な水量を削減し、有収率の維持向上に努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は全国平均や類似団体平均に比して高くなっているが、管路経年化率は管路の更新を行ったため前年より1.36%低下し、平均より低くなった。管路の更新については年度によりばらつきがあるが、事業の実施時期を一時期に集中することのないよう、管路の布設環境や管種、劣化状況などを踏まえ、緊急度・優先度の検討を行い総合的かつ計画的に進める。

全体総括

給水人口の減少などに伴う給水収益の減少が見込まれる中、水道施設の適切な維持管理及び老朽化に伴う改築・更新、南海トラフ地震に備えた耐震化に係る費用が増加し、今後も厳しい経営状況が予想される。これまでの経営努力にとどまることなく一層の効率的な事業推進に取り組み健全な経営基盤を構築する。また、受益者負担の原則により適正な料金水準を検討し、持続可能な事業運営を実施していく。